

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A:十分達成できている
B:おおむね達成できている
C:やや不十分である
D:不十分である

1 前年度 評価結果の概要
・学校全体として落ち着いた生活が、学習にも良い影響を与えていると考える。
・校内研究では、「つぼみタイム」の中に可視化を取り入れた取組や、年2回の授業参観推進月間の取り組みを通して、各学年や学年グループで工夫を凝らした授業づくりを行い、教師の授業力改善が進んでいると考える。
・コロナウイルス感染症の5類移行以降、以前のように地域の行事や地域の方との交流機会が増えた。学校関係者評価でも、地域の行事に参加をしたり地域の方々と交流したりすることで、児童がふるさとのおよきを知ることにつながるかと評価していただいた。体験したことを更に教科学習につながるようにしていきたい。
・1週間の総運動時間を「0分」と回答する児童が、女子は、全国平均を上回った。学校全体で、運動に親しむ取り組みを実施していく必要がある。

2 学校教育目標
自ら学自ら学び 心豊かに 笑顔輝く 津保美つ子の育成

3 本年度の重点目標
① 家庭・地域とのつながりを大切にしながら育む豊かな心(出番・役割・承認)の醸成
② 児童がより楽しくわかる授業づくりと校内研究の充実
③ 地域とともに歩み、地域へ貢献できる学校の推進
④ 特別支援教育・UD(ユニバーサルデザイン)を基盤とした教育の充実
⑤ 安心・安全な教育環境の充実

4 重点取組内容・成果指標
(1)共通評価項目
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

Main evaluation table with columns: 評価項目, 重点取組内容, 成果指標(数値目標), 具体的取組, 中間評価(進捗度, 進捗状況と見通し), 最終評価(達成度, 実施結果), 学校関係者評価(評価, 意見や提言), 主な担当者

5 総合評価・次年度への展望
・家庭・地域とのつながりを大切に、豊かな心を育む活動が進んだ。児童の自己肯定感や役割意識が向上したが、学びを日常生活に活かす取り組みがさらに必要である。
・楽しくわかる授業づくりと校内研究が充実し、児童の学習意欲が高まり、授業の改善が進んだ。教科間で統一的なアプローチが求められる。
・地域との連携と貢献活動が進み、児童は学校行事を楽しんでいる。地域との協力体制をさらに強化する必要がある。
・特別支援教育とユニバーサルデザインを意識した指導が充実し、全児童に対応した環境が整った。支援が必要な児童への更なるサポートが求められる。
・安心・安全な教育環境が確保され、いじめの認知件数が少なく、児童は学校生活を楽しんでいる。いじめ防止対策のさらなる強化が必要である。